

# 1年の振り返りとこれからを語る ～同友会活動と自社経営～

## 【出席】

林 哲也 氏

香川県ケアマネジメントセンター(株)  
代表取締役  
(代表理事／高松第4支部)

小西 啓介 氏

(株)ウエストフードプライニング  
代表取締役  
(代表理事／中讃第2支部)

有吉 徳洋 氏

(株)エーワンセキュリティサービス  
代表取締役  
(代表理事／高松第8支部)

宮下 幸雄 氏

香川同友会  
事務局専務

## 【司会】

渡辺 康平 氏

photo. DTP. Movie.yasuhira  
代表  
(広報・情報化委員長／高松第8支部)

青年経営者全国交流会(以下、青  
全交と表記)について

**司会** 明けましておめでとうござ  
います。本日は(1)自社経営の  
一年を振り返る。(2)同友会活動  
を振り返って。(3)同友会がすす  
めている企業づくりと会活動のこ  
れからについて。以上のテーマで  
進めていきたいと思いますが、  
その前に昨年の青全交について  
感想をお聞きます。

**林** 青全交に関しては色々と感じ  
ることがありました。第1分科会  
に参加しましたが、特に印象に  
残ったのが「若い会員さんは積極  
的にいろんな役につくべきだ」と  
いう言葉です。これに対して議論  
が展開されましたが、この一言は  
胸に刺さりました。

たしかに、会社の経営でも言  
えますが、年月が経つにつれて  
若干年齢層が広がるのが常です。  
そうすると若い人たちはいつま  
で経っても下っ端扱いになるわ  
けです。そうではなくて、若くて  
も力のある人はどんどん与えら  
れた役割の中で力を発揮してい  
くことが大事ではないかとい  
うことを話し合いました。

やはり、人を育てていくとい

林 哲也 氏

う観点で、若い人たちに役を担っ  
てもらおうような会運営の仕方も  
大事だと思いました。これは会  
社経営も同じです。こんなこと  
を強く感じました。

**小西** 結論的にいうと大成功  
だったのではないかと思います。  
改めて振り返ると色々  
反省点もありますが、総合的に  
は香川同友会としてよく頑張っ  
たのではないかと評価していま  
す。

大成功と私が考える理由は、  
関わった会員一人ひとりが本気  
で取り組んだことと、会員同士  
が本音でぶつかり合いながら意  
見を出し合い準備を進めたこと  
が青全交の大きな成果だと思  
います。コロナ禍を経て会内の関  
係性が希薄になっていたことは  
否めません。本音でぶつかり合

いながら議論ができたこの成果  
を今後どう生かしていくか。今  
はそんなことを考えています。

**有吉** 私の入会当時、青年部は  
設立されていなかった上に、発  
足後もあまり関わりがあまりま  
せんでした。今回、青全交に関わ  
らせていただいて、その必要性が  
よくわかりました。

特に青全交は、同友会の中の  
エンジンのな位置づけで躍動し  
ていくものだということを強く  
感じました。若い会員の皆さん  
から多くを学ばせてもらいまし  
た。大きな力をもらいました。日  
本を変えようとしている。自分  
たちの県を変えようとしている  
若い人たちが、あんなにたくさ  
ん集まるチャンスは、今までな



かったので、心底よかったと思っています。

これから、本当の意味で若いエンジンと共に育っていくことが、我々の使命と受け止めています。

**司会** 宮下さん、運営側としての感想はどうですか。

**宮下** 中同協でいえば、新しいステージ、香川同友会でいえば新しい景色、今回の青全交であれば、守・破・離のテーマで取り組みましたが、全体的に挑戦をした大会ではなかったのかなと思っています。いろいろなことに挑戦をし、その結果を踏まえて、いろいろなことを検証していくきっかけになった青全交だったのではないかと思います。

### 自社の歩み

**司会** では改めて自社のこの一年間の歩みはどうでしたか。

**林** 着実に事業を積み上げていくことをこの30年間やってきましたが、毎年複利計算5%の目標を達成してきました。去年一年を振り返ると、我が社にとっての一番大きい動きはDX強化の失敗です。

当社の基幹システムを見直した

のですが、これが大失敗でした。何千、何万件もの情報が入っている基幹システムの機能強化・DX強化を安易に考え過ぎていた結果の失敗で、立て直しに半年程かかりました。

新しいシステムに移行するときは、真剣に取り組まなければならないことを経験しました。社員はこの30年間で少しずつ増え、71名の社員になりました。

**小西** 昨年もチャレンジの一年でした。製麺工程を全て変更し進化させ、品質の安定化と労働負担の軽減を実現しました。また店舗の改装も積極的に進めました。その事で直営店舗の業績は好調に推移し、広島を皮切りに県外へのフランチャイズ出店も順調に進んでいます。

DX推進にも注力しました。DX専任者を採用し取り組みを進めバックオフィスの業務効率化を進めました。現段階でトランスフォーメーションには程遠い状態ですが、今年はAIを活用した社員教育スキーム完成への取り組み強化を行っています。

次に、事業開始から3年目のクラフトビール事業は、売上げ

が前年対比約300%の成長となりました。地域アーティストとの連携やイベントの開催、また全国のビールイベントに参加することで王越麦酒ブランドの共感認知度が向上、それに比例して業績も向上しました。今後もちづくりと地域課題解決を念頭に置き、クラフトビール事業と地域の発展を進めていこうと考えています。

最後は農業部門ですが、今年は気候変動の影響で夏場のネギの生産がほぼストップしました。今後の気候変動の影響に大きな危機感を抱いています。また、全国的に農業従事者が減少し続けており、日本の農業生産の崩壊が起こることが考えられます。

食料問題は地域課題というよりも国家的課題なので課題意識を高く持ち、農業に向き合わね

ばと改めて考えさせられた一年でした。

**有吉** 半ば諦めかけていた経営を、もう一度チャレンジしてやろうと再起したのが一昨年の11月頃です。昨年の年明けに、代表理事にならないかという打診がありました。最後のチャンスが来たと思います、本当に自分で良いのかという迷いはありましたが、尊敬する二人からの有難い言葉と捉え



小西啓介氏



お受けしました。

改めて経営指針書を見直し、まずは、ぼんやりとしていたビジョンを明確にしました。そこから自社分析を行い、自社の強みと弱みから、事業戦略を立て直すことに着手しました。強みを最大限に活かし、全社員で成果を出すことにこだわりました。そのために何より大切なのは社員との信頼関係です。今まで繰り返し返してきた失敗の原因はそこにあり、あてにし、あてにされる関係構築に取り組んでいます。

まだまだ、やらなければならぬ事がたくさんありますが、一つひとつ丁寧にワクワクしながら日々精進しています。

### 同友会の一年を振り返る

**司会** 皆さんのお話から、昨年は挑戦の年だったように感じました。では今度は同友会の一年を振り返っていただきます。

**小西** 有吉さんの代表理事就任は大きなニュースでした。有吉さんは我々とは異なる視点で地域と関わっていると感じています。有吉さんの就任で私の地域に対する向き合い方に以前とは

違う視点が加わりました。今後意見交換しながら同友会全体として地域貢献度を高めたいと考えています。

次に、他県同友会や全国大会の報告者が増えたことも香川同友会の成長だと感じています。今後も全国レベルで報告できる会員が増えることを期待しています。

そして最後は、やはり青全交です。青全交開催により集められた実行委員会のメンバーが主体的に向き合い、青全交の準備を進めてくれたと感じています。自主・民主・連帯の精神でありゆる意見を受け止め繋ぎながら前進していききました。

今後は今回の成功を通過点で終わらせず、2027年に香川県で開催予定の中間協定時総会に向けて、青全交の成果と反省を丁寧に検証し活かすことが大切だと思っています。基調報告の最後に話した組織率10%超えの香川同友会が地域にどう影響を及ぼすのか。定時総会開催まで残された約1年半の間に具現化していくことが我々の最大のテーマだと思っています。

有吉徳洋氏



**有吉** 代表になったことが自分の中では一番、いや大き過ぎる出来事です。プレッシャーはありましたがい意味での影響はとても大きいものがありました。林さん、小西さんに比べ至らぬところもありますが、同友会活動の現場にずっといたことが強みで二人とは異なる役割があると思っています。

昨年は何といっても青全交ですが、それ以外でいうと、経営指針を創る会の座長を務めたことが印象に残っています。プレッシャーもありながら、中途半端になつてしまいがた、何とか終えたのですが、一年間があつという間で、あまり広い視野で物事を見る余裕がなかったことが反省材料です。

**林** 代表理事が三人になったことは本当に良かったと思います。

コロナ禍が始まったときから代表理事が私一人という時期が数年間続きました。代表理事になって以降、コロナ禍に始まり、自身の病気の発症とトラブル続きの中で、一人で代表理事を通したのですが、これは勉強になりました。特にコロナ禍の最中、他の経営者団体が活動を止める中、同友会は活動を止めないというところが報道関係者の間でも注目され、それを聞いて同友会はやっぱり凄いと思いました。

三人の代表理事になることによって、三人が集まって一人の人格ができたみたいでしたが、こういうふうな関わり方は、一

般の会ではとても無理なことです。同友会では自分の権利を主張することがありませんし、これによって何が育つかの発想でしか考えないので、同友会運動発展のためにという共通の目標のおかげで、齟齬がありません。ですから、三人寄れば文殊の知恵を地で行くようなものです。

この一年間を振り返ってみると、「共育型インターンシップ」が高知、愛媛に続いて鹿児島と福岡でも広がっています。このように全国への広がりを背景にした中で、青全交で、香川発の企画が取り上げられたことは感慨深いものでありました。

**司会** 宮下さんには、事務局員として、事務局の視点からこの一年を振り返って語っていただけますか。

**宮下** 事務局に関してですが、今は事務局経営に直接関わっていないのですが、去年一年のかたちでいくと、皆さんのお話のように、事務局の中心は青全交だったのではないかと思っています。

香川同友会は過去10年に一回、全国大会の開催をしてきていま

すが、今回、青全交を開催するにあたって、会員さんも事務局員も、全国大会の設営を経験していないメンバーが半数以上でした。その中で、青全交に関わるといふ部分は、経験値を高めるための一つのチャレンジだったのではないかという気がします。

これまで、全国大会を何度か設営してきているので、基本的なノウハウを香川同友会が持っています。今回はあえてそういうものをあまり出さずに、若い事務局員が一から考えて、会員さんと共に作り上げていくという体制を取りました。それが直接、経験値に繋がっていくのではないかという気がしています。

2027年の全国総会に向けて、今回の経験者が、そのまま全国大会に取組むことで、もう一つ上の全国大会を目指せるのではないかと期待しています。

**司会** 青全交では本当に頑張ってくれたと思います。事務局の皆さんにはお礼を申し上げます。ところで、代表理事三名の役割分担のようなものはありますか。

**小西** はい、役割分担はありますね。ただ、それぞれが意識せず

自然に役割を全うしているように感じています。

林さんは、同友会運動の導き役です。林さんは私には無い視点や発想を持たれており、考え方や物事の捉え方、進め方を代表理事と経営者の両面から参考にさせてもらっています。林さんは同友会を熟知しているので、正論を語り導いてくれます。これは同友会運動の健全な発展において重要で大変有り難いことです。

有吉さんは、就任一年目ということもあり、正直戸惑いも多かったのではないかと思います。しかし、我々にとって潤滑油のような存在で全体を上手くバランスしてくれる方です。自社の課題解決を進め会社を発展させる強い意志を持って代表理事に

就任されたので、課題を抱える会員さんの目線に合わせられることも有吉さんの存在意義ではないかと感じています。

#### これからの同友会活動について

**司会** これからの同友会活動について、ビジョンで掲げる「3本の矢」と「第8次ビジョン」を中心に伺います。

**林** 「災害時コイコMAP」「オーブンファクトリーCRASSO（クラッソ）」「共育型インターンシップ」の展開については、同友会の企業づくりが本気で取り込まれているかどうかになると疑問があるのですが、今は中同協レベルでいくと、経営指針の成文化運動から経営指針の確立運動へと、こういうことになって



宮下幸雄氏



います。

もう一つは社員教育絡みの話ですが、今は管理職教育が問題になっていきます。一定規模のリーダーの育成です。そういう人たちが育てていくことができるような企業づくりをということです。

**小西** まずは、やはり同友会は企業づくりです。会員企業が発展する活動となるよう現在の活動内容を冷静に見つめ直し、科学性と合理性を意識した活動に進化させる必要があります。その上で重要なことは、①会員各自が活動を通じた経営発展を強く意識すること②活動全体の棚卸を行い成果の出ない活動の見直しと廃止を進めることの二つが求められます。企業の発展成長を実感する会員を増やすことが全会員の責任です。

次に、組織率10%同友会の地域に対する影響力を顕在化させることです。ここにおいても先ずは企業づくりです。一社でも多く「地域の希望となる会社」が増えることです。また「支部づくりと地域協議会の推進×各委員会の地域を意識した活動と地域連携強化」が求められます。

改めて「3つの目的」達成の意

欲を高め、よい会社、よい経営者を増やし、中小企業が希望をもつて事業を継続できるよい経営環境づくりを我々会員各自が主体性をもつて進めていきたいと思います。

**有吉** まずは、自分自身が同友会の役を受けると、本心に「よい会社」「よい経営者」になれるんだと会員に希望を与えられるベンチマークに成長することが使命であると思います。それから、「よい経営環境」づくり、同友会が香川県でなくてはならない存在にならなければならないと思います。先輩会員の方々が育ててくれたものをどのようなかたちでブラッシュアップし、未来に受け継いでいくか、50年の節目であり、大事な時期だと思います。

「3本の矢」は確実に地域にインパクトを与える存在に成長していると思います。課題の一つとして、現在の香川同友会の体制があります。「3本の矢」を「同友会運動」を県下の隅々まで広げるための環境を考える必要があると感じます。

今回の青全交で、多くのリーダーが育成されました。「第8次

渡辺康平氏

ビジョン」の作成と実践を通して、次世代を担うリーダーと共に香川の新しい景色を共創していきたいと思っています。

**宮下** 現在、香川同友会では多くの企業づくりや地域づくりに取り組んでいます。同友会の経営者団体等では一切掲げていない「よい経営者になろう」ということに取組んでいるのかという事です。

「よい経営者になろう」というのは、「3つの目的」の中では経営者に要求される総合的な能力を身につけることが大切と言われています。経営者の方々は経営指針創りとか、社員教育などいろいろと取組んでいます。自身がよい経営者になるためのことを考えているのかどうか。

思い込みや裸の王様にならないように立ち止まって、自分自身を客観的に見直す取組みをしていただきたいと思っています。

**司会** 貴重なお話をありがとうございます。香川県になくはない同友会になるためには、若い会員さんにチャンスを与え、いろんなことにチャレンジできる機会を増やして未来を担うリーダーを育てることが大切だと語っていただきました。

皆さんの忌憚のないご意見は、私も広報・情報化委員会の活動にも大いに役立つことと思っています。本日はありがとうございました。